

執筆要領

1. 仙台大学紀要「投稿規程細則」(第1章2.原稿の提出)に基づき、「執筆要領」を以下のように定める。
2. 原稿の書式
投稿論文の原稿の使用言語は日本語または英語とする。以下の書式は日本語による投稿論文に関するものである(別紙「原稿書式例」参照)。英語による投稿論文の書式は特に指定しない限り日本語に準ずる。
 - 1) 投稿論文の原稿は文書作成ソフト(マイクロソフト社ワードと互換性のあるソフト)で作成するものとし、A4判横書き(上下左右約3cmの余白を取る)で、1頁あたり日本語では全角40字30行(英文綴りおよび数値は半角)に、英語では半角80字30行に設定する。日本語フォントは明朝を、英語はTimes New Romanを使用し、いずれも大きさは10.5ポイントを使用する。本文中の句読点はそれぞれ「。」、「、」を用いる。各頁の左欄外に行番号(1~30番)を付ける。
 - 2) 原稿枚数は文献・図表(写真含む)を含め20頁以内(頁番号を付す)とする。なお、図表(写真含む)は1点あたり日本語では600字、英語では1,200字として計算する。図表(写真含む)の数は、原則、10点以内とする。ただし、論評、学会参加報告はその半分の分量(原稿枚数:10頁以内、図表(写真含む):5点以内)とする。
 - 3) 図表は1点ずつ通し番号とタイトルを付け、本文とは別に添付する。本文中の挿入箇所は↑で示し、当該行の右欄外に図表番号を朱書きする。
 - 4) 本文の章・節等の構成には、原則として下記のローマ字数字を使う。文献や注記等には数字を付さない。なお、本文の構成(章:大見出し)は、原則、「緒論 Introduction」「方法 Method」「結果 Results」「考察 Discussion」「結論 Conclusion」とする(総説、論評、学会参加報告を除く)。
大見出し「I」「II」「III」..
中見出し「1.」「2.」「3.」..
小見出し「1.1」「2.1」「3.1」..
以下、「1.1.1」..、「2.1.1」..、「3.1.1」..
 - 5) 論文中で文献を引用する場合には、原則、「体育学研究」(一般社団法人日本体育・スポーツ・健康学会学会誌)のスタイルにしたがい著者

姓・発行年方式(ハーバード方式)で示す。(「体育学研究」投稿の手引き参照)

- (1) 本文中で文献の一部を直接引用するときは、次のような形で引用した語句を日本語は「」, 英語は“ ”でくくる。また、必要に応じて引用箇所の掲載頁を「p. 頁または pp. 頁—頁」と明記する。

[例]

- ① 「・・・」(柴田, 2009) と表記される…
 - ② 「・・・」(宮城・船岡, 2018, pp.23-27) の視点は…
 - ③ 「・・・」(松島編, 1993, p.56) という考え方には…
 - ④ “……” (Miyagi and Sendai, 2011, pp.230-233) という結論は…
 - ⑤ “……” (Harada et al., 2005, pp.82-84) という意味で…
- (2) 本文中で参照した文献を明記する場合には、次のような形で著者名と発行年、必要に応じて引用箇所の掲載頁(同上)を明記する。

[例]

- ⑥ 宮城ほか(2018)によれば…
 - ⑦ 文部科学省(2019, pp.124-265)の一連の報告では…
- (3) (2)において著者名が2名の場合には日本語は中黒(・), 英語はアンド(and)を使用し、3名以上の場合には筆頭著者の姓の後に日本語は「ほか」, 英語は「et al.」を用いる。本文中で括弧内に引用された複数の文献が連続する場合はセミコロン(;)でつなぎ、筆頭著者のアルファベット順を優先して列挙する。同一著者の文献が複数ある場合には、括弧内の発行年をコンマ(,)でつなぐ。同一著者の同一年に発行された複数の文献は発行年の後に a, b, c…をつけて区別する。

[例]

- ⑧ 名取・岩沼(2001, p.45), 槻木(2006, pp.34-37)の報告によると…
- ⑨ Harada and Kai(2007)の見解では…
- ⑩ 伊達ほか(2013a, 2013b)による一連の研究では…
- ⑪ …と報告されている(Ae et al., 2017; 角田・大河原, 2015; 白石ほか, 2010)。

- 6) 文献(References)はすべて引用文献とし、本文の最後に著者名のアルファベット順に一括する。なお、文献(定期刊行物, 早期公開

論文, 未公刊論文, 単行本, 翻訳書, Web サイトなど) の表記は, 原則, 「体育学研究」(一般社団法人日本体育・スポーツ・健康学会学会誌) のスタイルにしたがい表記する。(「体育学研究」投稿の手引き参照)

以下では, (1) 定期刊行物と (2) 単行本のみの表記について記載する。

- (1) 定期刊行物(いわゆる雑誌)の表記は, [著者氏名(発行年)論文題目. 誌名, 巻(号): 頁—頁.] の順で記載する。共著の場合, 著者と著者の間は, 日本語は中黒(・), 英語はカンマ(,) で区切り, 最後の著者の前だけに“and”を入れる。

[例]

- ① 田中智仁(2020) 女性警備員の雇用と労務管理の課題. 仙台大学紀要, 52(1): 13-26.
 - ② 宮西智久・藤井範久・阿江通良・功力靖雄・岡田守彦(1996) 野球の投球動作におけるボール速度に対する体幹および投球腕の貢献度に関する3次元的研究. 体育学研究, 41(1): 23-37.
 - ③ Kim, H., Maehashi, A., and Ma, J. (2017) Factors impacting levels of physical activity and sedentary behavior among young children: A literature review. *Int. J. Appl. Sports Sci.*, 29(1): 1-12.
- (2) 単行本の表記について, 全体の場合は [著者氏名(発行年)書名(版数). 発行所, p. 頁または pp. 頁—頁.], 一部の場合は [著者氏名(発行年)題名. 編集または監修者氏名, 書名(版数). 発行所, p. 頁または pp. 頁—頁.] の順で記載する。編集(監修)書の場合には編(監)と表記する。共著の場合, 著者と著者の間は, 日本語は中黒(・), 英語はカンマ(,) で区切り, 最後の著者の前だけに“and”を入れる。

[例]

- ④ 白幡真紀(2015) イギリスにおける学習と訓練の公共管理システム: 需要主導アプローチへの転換. 大学教育出版.
- ⑤ 富樫健二(2013) 健康の概念. 鶴木秀夫編, 健康づくりのための運動の科学(第7刷). 化学同人, pp.1-14.
- ⑥ 永田秀隆(2006) 経営資源. 日本体育学会監, 最新スポーツ科学事典. 平凡社, pp.262-263.
- ⑦ 宮西智久編(2016) スポーツバイオメカニクス. 化学同人.
- ⑧ 大学保健体育研究会編(1984) 大学生の

体育と保健. 道和書院.

- ⑨ Wilmore, J.H., and Costill, D.L. (1999) *Physiology of Sport and Exercise* (2nd ed.). Human Kinetics.
- ⑩ Atwater, A.E. (1979) Biomechanics of overarm throwing movements and of throwing injuries. In: Hutton, R.S., and Miller, D.I. (Eds.), *Exer. Sport Sci. Rev.*, 7. Franklin Institute Press, pp.43-85.

7) 注記等は本文と文献の間に注記番号(例, 注1 注2) ..) を付して一括する。本文中の注記の引用はその箇所の右肩(上付)に注記番号を付す。

8) 原稿には表紙を付ける。表紙の記載事項は「表紙記入例」(別紙)に従う。

9) 原稿とは別に英文抄録(300語以内)とその和文訳を表紙の後に添付する(学会参加報告を除く)。

附 則 本要領は平成22年4月1日から適用する。

附 則 本要領は平成30年4月1日から適用する。

附 則 本要領は令和2年4月1日から適用する。

附 則 本要領は令和4年4月1日から適用する。

附 則 本要領は令和4年10月4日から適用する。